

物価高騰に見合う年金額引き上げを求め 厚生労働副大臣に申し入れ、交渉を行う！！



年金者組合は5日、2023年度の予算編成にあたり、公的年金の「物価上昇率に基づく増額改定」、75歳以上の窓口負担2倍化の撤回、介護保険の見直し、病院と保健所の削減・統廃合の中止等を求め、加藤勝信厚生労働相あてに申し入れを行いました。

陳情署名1を提出し、物価上昇に見合う年金額引き上げの実現を強く求める

杉澤委員長が羽生田俊厚生労働副大臣に「申し入れ書」を手渡すとともに、「私のひとこと」を添えた岸田首相への陳情署名14,505筆（合計29,661筆）を副大臣に提出しました。

杉澤委員長は、「物価高騰のもとで年金は0.4%引き下げられ10月からは高齢者医療費の窓口負担が2倍化された。相次ぐ物価高で高齢者・年金受給者の生活は大変となっており、年金だけで生活できる人が減り、高齢者でも働かざるをえなくなっている。こうした点も考慮し、物価上昇に見合う年金額引き上げの実現」を強く求めました。

岸田首相への陳情書の「私のひとこと」は、「年金減額と物価高騰で本当に困っており、食事は夜だけで、体重は38kg。水道水をペットボトルにいれ、太陽熱で温めて使っている」（香川県）、「通帳の残高不足で電気、ガスの停止予告通知が届いた」「一時は死も考えた」（大阪府）と悲痛な声が上がっている。組合は副大臣に対して、こうした一人ひとりの思いを受け止めて、「物価高

騰に見合う年金額引き上げ」を行ってほしい、と主張しました。

厚生労働副大臣は、生活物資の高騰には一時金で対応することにも言及

応じた羽生田俊厚生労働副大臣は、「要請の趣旨は理解できる」としつつも「マクロ経済スライドは長期で見てもらう必要がある。これをしないと財源が枯渇してしまう」、と語りました。

組合は、「2000年から3年間、物価が下がっても景気をさらに冷え込ませないために、特例法で年金を下げなかった。『マクロ経済スライド』は一時凍結し、年金を引き上げるべきではない。特例法で対応すべき」、と再度主張しました。これに対し副大臣は、「今回はコロナ騒ぎがあるので来年度は少し上がるだろうと予測している。また、生活物資の高騰には対応しようとは思っている。一時金で対応することは考えている。ぜひご理解願いたい」、と答えました。

年金者組合からは、杉澤委員長のほか飯野副委員長、加藤副委員長、田中副委員長、中川副委員長、廣岡書記長が参加し、日本共産党の倉林明子参院議員が同席しました。